

- 1 派遣期日 平成29年11月11日(土)
- 2 研修先 筑波大学附属中学校
東京都文京区大塚1丁目9-1
<http://www.high-s.tukuba.ac.jp/jhs/wp/>

3 研修内容

(1) 全体会

「これからの時代に求められる資質・能力の育成」

講師：清原 洋一先生(文部科学省主任視学官)

中学校の学習指導要領が告示され、指導要領の解説が公表されたことを受け、改訂に中心的な役割を担ってこられた清原先生より、今回の改定の要点と、各教科の特質に応じた見方・考え方について講話いただいた。改訂ポイントとしては、以下の6点である。

- ① 社会に開かれた教育課程の実現
- ② 育成を目指す資質・能力の明確化
- ③ 主体的・対話的で深い学びの実現
- ④ 学校として、教育内容を効果的に編成し、実施、評価、改善
- ⑤ 初等中等教育の一貫した学びの確立と子どもの発達の支援
- ⑥ 「次世代の学校・地域」創生

特に③に関しては、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、生涯にわたってアクティブに学び続ける力を育成する必要があることから、重点項目として掲げられている。

(2) 授業公開 社会科(公民・地理)の2授業を参観

社会科では、今回の学習指導要領改訂におけるキーワードに目を向けて意味を探りながら実践を重ねるとともに、改訂の流れを大きくとらえて主旨を理解したうえで実践を行うという視点を踏まえ、見方・考え方を働かせ、資質能力の育成を目指している。

① 3学年 公民 「わたしたちと現代社会」

破損したゲーム機の弁償の負担割合を決めるという身近なトラブル解決事例より、「よりよい決め方とはどのようなものか」について考えさせ、負担割合を決める過程での対立を合意に導くための活動を通して、合意を形成するにはどのようなことが必要であるかを考えさせる授業である。

【事例】 A君 学校に携帯用ゲーム機を持ってきた
B君 A君のロッカーからゲーム機を取り出し、遊んだ後、職員室へ持っていき、先生に提出しようとしていた
C君 部活の友人が怪我をし、保健室に先生を呼びに行こうと走っていた所をB君と衝突する。
◎壊れたゲーム機の代金をA、B、Cの3人がどう負担するか。

始めに生徒たちに事例の文章を読ませ、場面で想定される主張を、全体が30になる比で負担割合を考えさせていった。グループで話し合い、合意した結果を紙に書き、発表した。

<研究協議>

研究協議では、課題を出されてそれに取り組んでいる点においては、主体的とは言えないという意見があったが、その一方で教師が出した課題をどうやって解決するかという過程が重要であり、できるかできないかというよりも、思考のプロセスを評価していくことが大切であるという意見が多くあげられた。

② 1学年 地理 「世界の諸地域 オセアニア州」

参観した授業は、オセアニア州の4時間目にあたり、オーストラリアにおける特色ある地理的事象を取り上げ、その事象を成り立たせる環境条件を説明できるようにするのが目標であった。

まず導入では、新聞記事を活用し、教科書に出てくる地名に関連する記事を取り上げ、授業の最初に1名が発表を行った。他の生徒たちは、一人一枚世界地図の白地図を持っており、発表された国名の位置にシールを貼り付けて記録していた。展開では、オーストラリアの産業分布図を生徒に予想させて描かせ、それをもとに他班のメンバーに根拠を明確にして説明するという活動を行った。最後に教科書に載っている正しい産業分布図を確認させ、予想と合っていた部分と、予想できなかった部分は何かをあげて、そこから見えてくるオーストラリアらしさを考えるというのが、授業内容であった。

<研究協議>

協議の題材は、「見方・考え方を働かせ、資質能力の育成を目指す世界地理学習」である。地理学習において、大陸や大洋、州や国などを取り扱うことになるが、「この用語は重要だから覚えなさい」というコンテンツ・ベースの考え方も重要であるが、一方で、「この学習は何ができるようになるためのものか」を考えて単元を構築する必要があるという意見が出た。資質・能力を育成するという考え方からは、生徒が学習や人生において、社会科の学習を通してどのような「見方」「考え方」自在に働かせることができるようになるか、そのために教師側はどのような授業を改善すべきかが、今回の改訂における肝であるということで、協議は終了した。

4 指導講話（井田仁康先生 筑波大学）>

今回の研究協議のメインは地理的分野であったので、指導講話では、主に地理に関して講話いただいた。社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるための手だてとして、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存関係、地域などの視点が明示された。5つの視点に基づいた「問い」が、「本時の主発問」や、数時間の学習を通して課題を追究していくための「単元を貫く問い」として発せられることで、地理的分野の具体的な学習活動が生み出される。例として、中学校入学後の地理の授業開きがあげられた。授業の冒頭に、「あなたは今どこにいますか？」と生徒に問い、「どこ？」という問いについての多面的・多角的な解答の可能性に気づかせ、これが地理の学習を通して大切にしなければならないものであることを印象づけることができるという。この授業開きでは、「位置」を表すための様々な手だてがあることに気付かせようとしている。①緯度や経度を用いて答える（絶対位置）②地域構成（大小様々な重層的な地域）③目印となる地名との位置関係（相対的位置）などのように、多様なとらえ方をすることができる。そうした位置の概念の多様性に着目することによって、生徒たちがこれから始まる地理の学習場面で「それはどこか？」と考えるたびに多面的・多角的な学習の基礎を得ることができることが期待される。

5 感想

今回は新しい学習指導要領の方向性について、具体的にどのように授業を改善していくかという視点から授業を参観することができ、大きな収穫となった。社会科という教科は、学習対象そのものが社会に関わるため、コンテンツ・ベースで捉えさせることは自明のように感じられるが、必ずしもそうではなく、生徒が「学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせることができるようになる」ことが、これからの社会で生きるうえで必要な資質・能力であり、そのような資質・能力を育成するために、教師はより綿密な授業改善の手だてを考えなければならないことを再認識することができた。地理的分野でいうと、「単元を貫く問い」など、今回の授業のような数時間の学習を通して生徒が自主的に課題を追究できるような発問の工夫をさらに研究していくことが重要であると感じた。今回の学習指導要領改訂におけるキーワードとして「資質・能力」「見方・考え方」「深い学び」などがあげられている。徐々に改訂に向けての準備を進めながら今回の視察で学んできたことを今後の授業に生かし、さらに研究と修養に努め、授業の質を高めていきたい。